

# 日本民家園だより

特集 旧山田家住宅

vol.82

企画展示「ダムに沈んだ村 -越中桂・旧山田家住宅-」  
2015年1月4日(日)～5月31日(日)  
『日本民家園収蔵品目録20 旧山田家住宅』刊行

# ダムに沈んだ村

— 越中桂・旧山田家住宅 —

## はじめに

旧山田家住宅（神奈川県指定重要文化財）は、昭和 61（1986）年に富山県東砺波郡上平村（現・南砺市）桂より移築されました。飛騨との国境に接した桂は、越中五箇山の中でも特に辺境の集落でした。長らく 6 戸の人々が暮らしていましたが、昭和 45（1970）年に集落が廃止され、現在はダムの底に沈んでいます。

旧山田家住宅は 18 世紀初期の合掌造りで、現地からは貴重な民具も寄贈されています。この稿では五箇山の四季の中、工夫をこらして営まれていた桂の暮らしをご紹介します。

## 桂の立地

桂は富山県と岐阜県を隔てる境川のほとりにあります。険しい山々に囲まれた桂から村役場や病院のある西赤尾へ出るのはとても大変なことで、昭和 33（1958）年に林道桂線が完成して車が通行できるようになるまでは、人の足で山を越えていました。

境川を隔てて岐阜県側にあった白川村加須良は、屋根の葺き替えや冠婚葬祭など、様々な面で桂と協力関係にあり、境川に架けた丸太の一本橋を渡り、地蔵峠を越えて互に行き来しました。桂の人々にとって、厳しい冬を乗り越える上で、助け合える加須良集落の存在は精神的な支えとなっていました。



1. 境川の丸木橋（昭和 40 年）

## 冬

冬、豪雪地帯の桂は陸の孤島となり、正月に帰省するのも困難でした。雪は一階が埋もれるほど積もり、屋根の傾斜が急な合掌造りの家でも降り続くときは 3 日か 4 日に一度は雪下ろしが必要



2. 桂集落（昭和 40 年 10 月）中央が山田家

でした。雪を下ろすときは縄を伝って高い屋根まで登り、頂上から切り落としていきます。落ちた雪が自然に溶けるよう、家の周囲には冬の間湧き水を流してありました。雪下ろしとともに欠かせなかったのが雪囲いです。主屋だけでなく、納屋や便所も全て屋根と同じカヤの束で周囲を囲みました。家の中は暗くなりましたが、寒さは全然違ったそうです。

冬の間、桂では出稼ぎに出ることはなく、家の中でゾウリを編んだり、炭俵を作ったりしました。マキを山から運ぶのもこの時期でした。ソリを使うことができたからです。こうした作業は「冬仕事」と呼ばれ、一年を過ごすために欠かせないものでした。



3. 五箇山の冬 相倉

## 春

春、桂の男たちは冬眠から覚めた熊を狙って山に入りました。弾は鉛を溶かして作り、火薬も古くは床下で作った塩硝を使ったようです。仕留めた熊は皆で山分けしました。毛皮は山で使う敷物にし、肉はすき焼きや刺身にして食べました。最も高く売れたのは「熊の胆」と呼ばれる胆嚢で、乾燥させて薬にしました。

雪が消えると雪囲いを外し、屋根の修理のためにカヤの束を積み上げておきます。大きな合掌造りの屋根を葺き替えるのもこの時期で、加須良集



落とも協力しながら何回かに分けて行いました。

桂で最も賑やかだったのが毎年5月に行われた春祭りです。この日は家を出た家族も戻ってきて、獅子舞とともに一軒一軒まわり、それぞれの家でご馳走を食べました。料理は蓄えておいた山菜が中心で、冬に仕込んだドロクを飲みかわし、夜通し騒いだそうです。



4. 合掌造りの葺き替え 相倉

## 夏

夏、桂では炭焼きや農作業に追われました。桂で焼いたのは軟質の黒炭です。バナヤナラを原木に使い、冬の間を作りためたススキ製の炭俵で出荷しました。また、合掌造りの一階と二階では養蚕を行いました。古くは糸にしてから出荷し、大正時代には糸挽き工場もありましたが、その後繭のまま出荷するようになりました。田は畑や河原の石で石垣を組んで作っていました。それでも米の収穫量は少なく、化学肥料が普及して自給できるようになるまでは、食事はヒエなどの雑穀が中心でした。畑ではひと通りのものを作りましたが、一般的な畑作の他、焼畑農業も行っていました。焼畑は、まず落葉が積もっている場所を選び、下草を刈って乾燥させます。次に火を付けて草を焼き、翌日直接種を蒔いていきます。育てた作物は主に赤かぶで、土を耕したり手入れをしたりしなくても、最高においしいものができたそうです。



5. 五箇山の赤かぶ

## 秋

秋、桂では収穫とともに冬を迎える準備が始まります。焼畑で出来た赤かぶは大きなタルで漬物にしました。雪に閉ざされる冬はこれが貴重な保存食となりました。カヤを刈り取るのもこの時期です。刈ったカヤはある程度乾燥させ、大きな束にして斜面を転がして落とします。次に落ちた先で積み上げ、さらに乾燥させます。この状態で冬まで置き、雪囲いに使いました。

秋の終わり、浄土真宗の信仰篤い桂の人々にとって大切な行事がありました。親鸞上人の忌日「ホンコサマ（報恩講）」です。「今日はこの家、明日はその家」というように集落6軒の家々に順に集まり、皆でお経を上げました。続いて寺のない桂では、説教代わりに分教場の先生にありがたい法話の本を読んでもらいました。このあとは山菜や手作り豆腐を中心にした心尽くしのご馳走の登場です。朱塗りの膳で一人ひとりご馳走が出るため、子供たちも皆楽しみにしていました。



6. 報恩講のご馳走

## 離村

戦後、関西電力が進めていた境川のダム計画で、桂は水没予定地に含まれることになりました。

昭和42（1967）年11月には協力関係にあった白川村加須良が離村しました。さらに、桂でも戸数が6戸から3戸にまで減り、越冬が困難になっていきました。そして昭和45（1970）年9月、桂はついに離村を決断します。集落の維持そのものがもはや厳しい状態となっていた桂にとって、田畑や山林を売り渡し、安心して住める土地に移るほうが良策となったのです。離村時期は11月頃とされ、10月25日に解村式、11月5日に分校の閉校式を終え、その数日後に桂は完全に無人となりました。

平成5（1993）年、ダム完成によってできた湖は集落の名を取って「桂湖」と名付けられ、山々の間に青い水を湛えています。

表紙写真：畑山拓登撮影  
1・2：古江亮仁撮影、3～6：南砺市提供  
文・4頁写真撮影：関悦子・渋谷卓男

## 山田家周辺の生活用具



しゅかぐ  
朱家具 報恩講で使う揃いの漆器。



チョウシ 祝儀用の酒入れ。



重箱  
祝儀の際、食べ物を入れて配った。



皿 祝儀に使う九谷焼の大皿。



ココノツグミ 婚礼用の杯。

イワビタツキワラジ  
冬用のはきもの。



小豆叩き  
アズキの脱穀用。



ツブラ  
赤ん坊を入れる育児用具。



ガントウ  
ガントウとはのこぎりのこと。  
これを背負って山仕事に行った。



手ゾリ 雪の時期の荷物運搬用。

日本民家園だより vol.82 発行：平成27年1月4日

川崎市立日本民家園 URL <http://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区栞形7-1-1 TEL 044 (922) 2181 FAX 044 (934) 8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3～10月] 9時30分～17時 [11～2月] 9時30分～16時30分 (入園は閉園30分前まで)

休園日 毎週月曜(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開園)、12月29日～1月3日

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円(川崎市在住の方無料)、中学生以下無料